日中韓文化財研究所による建築遺産に関する共同研究の動向

日中韓３国の文化財研究所、すなわち奈良文化財研究所、中国文物研究所（当時。現・中国文化遺産研究院）および韓国国立文化財研究所は、学術交流の一環として建築遺産を対象とした共同研究を推し進めている。そもそもこのプロジェクトは、学術交流を図るために、各国が保持している建築模型を、３国持ち回りで企画展示（展覧会開催）することとして、2005年の暮れ頃から話が持ち上がったものである。発案は韓国国立文化財研究所による。その後、各研究所は自国が保持している建築模型の所在等に関する情報収集をおこないつつ、展示会開催に向けた検討を進め、第１回準備会議を2007年４月に中国北京の文物研究所で開催した。中国に招聘された日韓文化財研究所の研究者は各３名であった。

この会議では、中国文物研究所所有の建築模型を実見するとともに、北京の建築模型博物館を訪れ、今後の共同研究の進め方についての討議がおこなわれた。当研究所では日本が保有する建築模型の特徴を示すために画像を用いてその紹介をおこなったが、この紹介は、３国が保有する建築模型の相違点についての討議を展開するうえで有効なものとなった。

一方、中国側から木造建造物に主眼を置いた保存修復の方法論に関する共同研究をおこないたいとの発案が出された。これは、東アジアにおける歴史的建造物の保存修復理念の確立を目指すものである。当初は建築模型展の開催に重点を置き討議していたが、３国の学術交流を図ることが第一義であるとの認識から、共同研究の方向性を見直す必要を確認し、その具体化に向けた討議は第２回準備会議に持ち越すこととした。

第２回準備会議は、中国、韓国の研究者各３名を日本に招聘して2007年９月に当研究所で開催された。この会議では、前回会議の結果を踏まえ、共同研究をより実現性のあるものとするための討議をおこない、2010年までの研究方針を以下のように考えた。

まず、共同研究の基本方針として、東アジアにおける歴史的建造物保存修復理念の確立を目標に据え、日中韓３国の歴史的建造物およびそれらの保存修復理念と実務についての情報交換と比較研究をおこなうこととした。

具体的には、①実地踏査および討議、②国際シンポジウムの開催、③古建築模型展の開催の３種の研究と事業からなるものとし、①の成果は②で発表・討議することとし、③の展覧会で共同研究のまとめをおこなうこととした。現時点では、国際シンポジウムを2009年度までに中国、韓国、日本の順に計３回おこない、2010年度中に日中韓３国の巡回展として古建築模型展を開催することとしている。

これまで当研究所では、日中、日韓といったように、２国間での共同研究をおこなってきているものの、３国間での共同研究実績はない。３国にまたがる共同研究を実現させることは容易でないことをこれまでの準備段階で知らされてきたが、各国の歴史的建造物に関するさまざまな情報を交換してこれを相対視する作業は、自国の建築的特質を把握するうえで有効なものとなるにちがいない。前記したように、本共同研究の最終目的地点として、東アジアにおける歴史的建造物保存修復理念の確立を掲げているが、この試みを３国における学術交流の始発点としたいと考えている。以上は３国文化財研究所の共通認識である。

当研究所の建造物研究室では、2010年までの中期計画として、古代建築技術の研究をおこなっている。この研究はこれまで実施してきた大極殿をはじめとする平城宮建物の復原研究などの蓄積をもとに、さらに研究を重ねておこなっているものであり、この研究を本共同研究に反映させることができると考えている。

（窪寺　茂）

図10　第１回準備会議参加者（北京にて）